琉球大学学術リポジトリ

韓国の企業メセナ活動による障害者文化・芸術の活性化に関する研究：日本と韓国の事例分析を中心に

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学教育学部
	公開日: 2015-11-06
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 金, 紋廷, 方, 貴姫, 金, 彦志, 韓, 昌完, Kim, Moonjung, Bang, Guihee, Kim, Enonji, Han, Changwan
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/32414

韓国の企業メセナ活動による障害者文化・芸術の活性化に関する研究
―日本と韓国の事例分析を中心に―

金紋廷 [1)2)], 方貴姫 [3)], 金彦志 [4)], 韓昌完 [5)*]

A study on the Activation of Disability arts through the Corporate Mecenat in Korea : Focus on case study with Japan and Korea

Moonjung KIM[1)2)], Guihee BANG[3)], Eonji KIM[4)], Changwan HAN[5)*]

1) 東北大学大学院経済学研究科
2) 日本学術振興会特別研究員
3) Soongsilcyber University
4) Hanshin-Pluscare Counselling Centre
5) 琉球大学教育学部特別支援教育講座

ABSTRACT

日本と韓国の企業メセナ活動は、1990年代から企業の社会的責任の一環として注目されてきた。特に、日本では、世界的な不景気や東日本大震災による厳しい経済状況にもかかわらず、持続的かつ長期的なメセナ活動に取り組んでいる。そこで、本稿では、日本の企業メセナとして障害者文化・芸術活動を支援している事例に焦点をあてて分析した。その結果に基づいて、今後、韓国の企業メセナによる障害者文化・芸術活動を活性化させるためには、1) 障害者文化・芸術活動支援に関した情報交流、2) 障害の特性を考慮した長期的支援、3) 障害者と健常者が直接的に触れ合う機会提供、4) 障害者の芸術活動が経済的自立につながるような支援が必要であると提案した。

Ⅰ．問題と目的

ユネスコ (UNESCO) の世界文化報告書 (World Culture Report) によれば、「文化は国民の基本的権利として認識すべきであり、政治的、経済的な発展のためには国民の文化的権利を保障すべきである」と明示し、すべての国民に対する文化・芸術活動の保障を強調している。また、文化・芸術活動は個人の創造力を向上させるだけではなく、創造的な経済活動の源泉であって、持続的な経済発展や国際協力の円滑力の基盤となり、国力を高めるものであるといえる（文化庁，2014; 韓国文化体育観光部，2013)。特に、障害者の文化・芸術活動を支援することは、障害者の個性や才能をいかしながら、障害者の社会的自立と経済的自立を果たすことができるため、福祉経済的な観点から非常に意義がある。

障害者を含むすべての国民の文化的権利を保障するために、多くの国では文化・芸術活動に対して公的支援を行っている。KIMら (2012) は、文化・芸術分野への公的支援は、韓国の文化・芸術の水準向上やインフラ構築に大きな役割を果たしたと示した。しかし、文化・芸術におけるニーズが増加しつつあり、公的支援のみでは対応することが難しくなったため、民間部門の積極的な参加として企業メセナ (Mecenat)[1)] の役割が大きくなったと主張した。

日本の企業メセナ活動による文化・芸術支援は、1990年代に企業の社会的責任が強く問われ

* 研究責任者 Correspondance; 韓昌完 hancw917@gmail.com

1) 企業メセナ (Mecenat) とは、企業の社会貢献の一環として音楽、美術、演劇、舞踊、建築、映像、文学などの多様な芸術文化支援を意味する（公益社団法人企業メセナ協議会，公益社団法人韓国メセナ協会）。

るようになり、その一部として注目され、積極的に参加する企業が増加するようになった(伊藤，2000; 古賀，2005)。特に、公益社団法人企業メセナ協議会の「2012年度メセナ活動実態調査」によれば、2011年の東日本大震災による厳しい経済状況にもかかわらず、メセナ実施率や平均活動費総額が堅調であったことから、活動を継続してきた企業の取り組みが社会に深く定着していることが分かる。そのなかで、障害者の文化・芸術活動に関しては、NPO法人エイブル・アート・ジャパンと協力しながら、障害者の芸術家や文化活動を支援するための多様なイベントを持続的かつ長期的に行う企業が増加しつつある。

韓国でも、1994年「韓国メセナ協会」が設立され、メセナ活動に積極的に参加する企業が増えてきた。しかしながら、世界的な金融危機の影響を大きく受け、2008年と2011年にはメセナ活動に参加する企業の数やその活動範囲が縮小され、持続的かつ長期的な支援基盤が十分整えていないと指摘されている(KIMら，2012; 韓国メセナ協議会，2011)。そのため、障害者の文化・芸術活動を支援する事例も少なく、持続的な支援活動を行う企業はほとんど見当たらない状況である。

そこで、本研究では、世界的な不景気や東日本大震災による厳しい経済状況にもかかわらず、持続的かつ長期的なメセナ活動を行っている日本企業に着目した。特に、メセナとして障害者文化・芸術活動を支援するための取り組みに焦点を当てて、日本と韓国の事例を分析し、今後、韓国の企業メセナによる障害者文化・芸術活動を活性化させるための具体的な課題を提案することを目的とする。

II. 方法

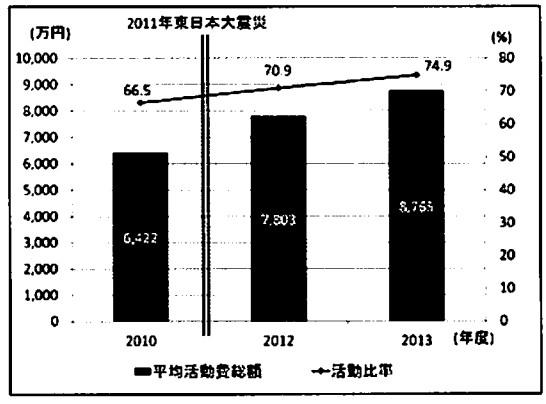
本研究では、日本の企業メセナ活動として障害者文化・芸術活動を支援するための取組に焦点をあてて、公益社団法人企業メセナ協議会による「メセナアワード」受賞企業のうち、障害者の文化活動や障害者芸術家を支援する事例を分析した。そのうえ、日本の事例が韓国に示唆する点について考察しながら、企業メセナを通して韓国の障害者文化・芸術活動を活性化させるための具体的な課題を提案する。

III. 日本の企業メセナと障害者文化・芸術活動支援

1. 企業メセナ活動の状況

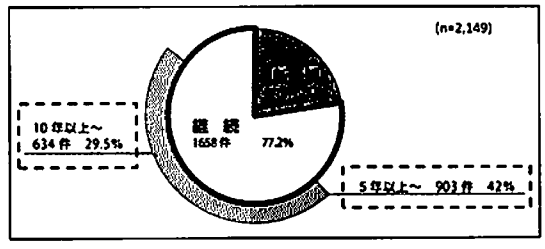
2013年度「メセナ活動実態調査」によれば、調査に回答した530社のうち、メセナ活動を実施した企業は397社であり、活動件数は3,124件である。また、企業だけではなく、財団を含めてメセナ活動実態を調査した結果、メセナ活動費総額は、811億3,875万円であり、前回の調査に比べて93億4,848万円増加したことが分かる。

図1は、メセナ実施率や平均活動費総額の推移を示したものであり、図2は、継続してメセナ活動に取り組んでいる企業の割合を示したものである。この図1と2から分かるように、2011年東日本大震災の影響にも関わらず、メセナ実施率は増加傾向をみせており、10年以上メセナ活動に参加している企業の割合が高くなっていること



出典：公益社団法人企業メセナ協議会2013年度「メセナ活動実態調査」、2010年度「メセナ活動実態調査」参照

図1 メセナ実施率と平均活動費総額の推移

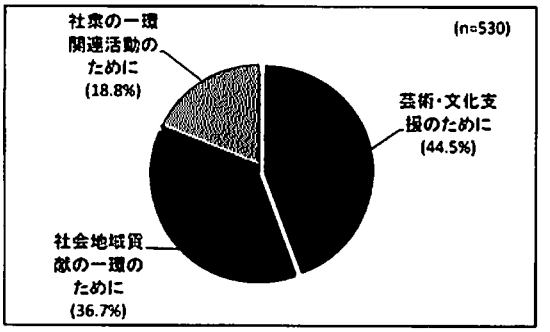


出典：公益社団法人企業メセナ協議会2013年度「メセナ活動実態調査」

図2 メセナ事業の件数と実施年数

から、活動を継続してきた企業の取り組みが社会に深く定着しているといえる。

メセナ活動を行う目的(理由)としては、「芸術・文化支援のために」が44.5%と最も多い割合を示しており、続いて「社会地域貢献の一環のために」が36.7%であった。また、「社業の一環関連活動のために」が18.8%となっていた。このことから、日本の多くの企業では、企業経営的な観点よりは、社会福祉の観点から芸術・文化の発展を念頭においてメセナ活動に取り組んでいることが分かる(図3参照)。



出典:公益社団法人企業メセナ協議会2013年度「メセナ活動実態調査」を参照
図3　メセナ参加の目的(日本)

2. 企業メセナとしての障害者文化・芸術活動支援の状況―事例分析を中心に―

公益社団法人企業メセナ協議会では、1991年から毎年「メセナアワード」を実施しており、全国の企業や企業財団を対象として優れたメセナ活動を行っている企業を表彰している。2013年までに表彰された企業及び企業財団の数は179件であった。

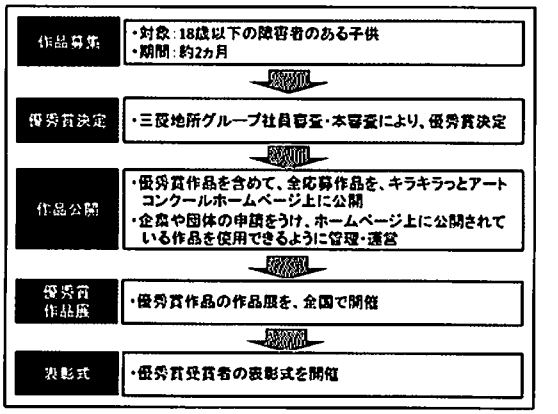
ここでは、障害者文化活動及び障害者芸術家を支援することによって「メセナアワード」を受賞したケースを分析対象とした。また、「メセナアワード」は受賞してないが、長期的に障害者文化・芸術活動を支援している企業の事例を含めて、企業メセナとしての障害者文化・芸術活動支援の状況を分析した。

1) 事例1：三菱地所株式会社「障がいのある子どもたちの絵画コンクール―キラキラっとアートコンクール―」

三菱地所株式会社では、メセナ活動の一環として障害のある子どもたちの絵画コンクール「キラキラっとアートコンクール」を実施しており、「メセナアワード2013」で特別賞文化庁長官賞を受賞した。

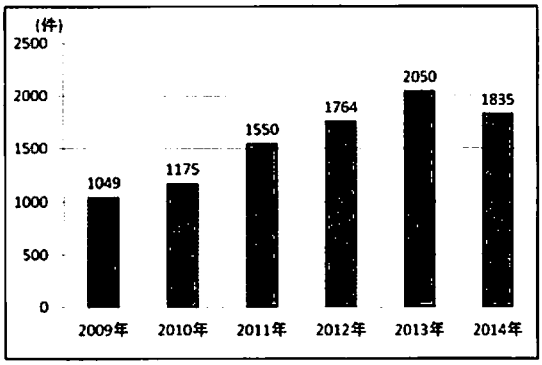
キラキラっとアートコンクールは、2002年より、社会福祉法人東京コロニーと協力しながら、毎年開催されている。コンクールに参加できる対象者は、障害者のある18歳以下の子供であり、優秀賞作品だけではなく、応募された全作品を三キラキラっとアートコンクールホームページ上に公開している。また、優秀賞受賞作品は全国を対象として作品展会を開催し、展示するとともに表彰している(図4)。

特に、ホームページ上に公開されている作品は、企業や団体の希望によって冊子やカレンダーなどで使用できるように管理しているところに注目すべてきある。障害者の社会参加だけではなく、芸術家または作家として働く機会を提供し、経済的自立につながるように支援しているからである。



出典:キラキラっとアートコンクールホームページ
(http://kira-art.jp/about.html)
図4 キラキラっとアートコンクール事業のながれ

2014年行われた第13回キラキラっとアートコンクールに応募された作品は、1,835件であり、優秀作品として50作品が決定された。過去5年間、応募作品数は1,000件を大幅超えており、優秀作品表彰のために、例年500名を超える三菱地所グループの社員が表彰式に参加し投票している。



出典:キラキラっとアートコンクールホームページ
(http://kira-art.jp/about.html)
図5 キラキラっとアートコンクール応募作品の推移

2) 事例2：近畿労働金庫　「エイブル・アート近畿　ひと・アート・まち」

近畿労働金庫では、メセナ活動の一環として障害者の芸術活動を支援するために、2000年より「エイブル・アート近畿　ひと・アート・まち」プロジェクトを実施しており、2006年には「メセナアワード2006」の文化庁長官賞を受賞した。

「エイブル・アート近畿　ひと・アート・まち」は、「ろうきん市民社会貢献基金」を活用して実施しており、財団法人たんぽぽの家と協働して、開催地の協力者とともに障害者の作品展示や演奏パフォーマンス、ワークショップなどを開催している。2000年から2013年まで、京都、和歌山、滋賀、兵庫、奈良、大阪で計14回の展示会を開催し、展示された作品は近畿労働金庫から運営しているエイブル・アートWEBギャラリーに公開している。

特に、「エイブル・アート近畿　ひと・アート・まち」の事業のうち、注目すべきところは、展示会や展覧会の他に、障害者の芸術活動や文化活動を支援するためのワークショップやプロジェクトである。2013年には、「ココカラート・京都」プロジェクトを実施し、京都府内の福祉施設やNPO団体、地域主民が参加する機会を提供したり、障害者と健常者アーティストの共同作業の機会を提供している。このことから、「エイブル・アート近畿　ひと・アート・まち」事業は、単なる作品展示ではなく、芸術活動を通して障害者と健常者が触れ合う機会を提供し、持続的に障害者の社会参加を促進しているといえる。

表1「エイブル・アート近畿　ひと・アート・まち」の展示会以外の事業

開催年度	事業内容
2006年	「エイブル・アート・リンク―人と人のあいだ―」 障がいのある人とアーティストがペアになって、新しい関係と作品をつくるプロジェクトである。
2007年	「エイブル・アート・リンク2007」 障がいのある人とアーティストがペアになって、新しい関係と作品をつくるプロジェクトである。
2013年	「ココカラート・京都」 京都府内で活動する福祉施設などが、それぞれの得意分野を生かしてワークショップやプロジェクトを行うイベントである。障がいのある人もない人も、子供も大人も参加して作品を通して表現する場を提供する。

出典:エイブル・アートWEBギャラリー
(http://www.rokin.or.jp/art/)

3) 事例3：三菱UFJフィナンシャル・グループ　アコム　「“みる”コンサート物語」

アコム株式会社では、メセナ活動として1994年より、毎年各地で「“みる”コンサート物語」を開催している。毎年10回以上のコンサートを実施する他にも、2010年からは新しい試みとして、教育団体や福祉施設から構成された「福祉の広場」実行委員会との共催公演を開催するなど、活発的な活動を行っている。

「“みる”コンサート物語」の運営特徴は、障害がある者でも文化活動に参加できるように、「影絵」「生演奏」「語り」「手話」を組み合わせたバリアフリーコンサートを実施することである。また、自主運営による手作りコンサートであるため、アコムの社員や各地域の市民ボランティアが協力して運営されることが大きな特徴である(図6参照)。

アコム“みる”コンサート物語ホームページに公開されている公演実績からみると、1994年から2014年まで計47県で190回のコンサートが開催された。1996年には、国内だけではなく、

中国でも２回開催された。

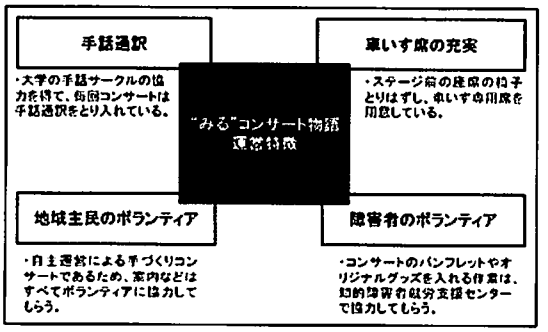
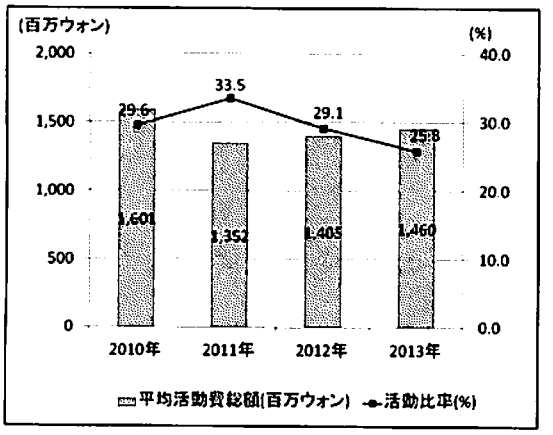


図6 "みる"コンサート物語の運営特徴

Ⅳ. 韓国の企業メセナと障害者文化・芸術活動支援

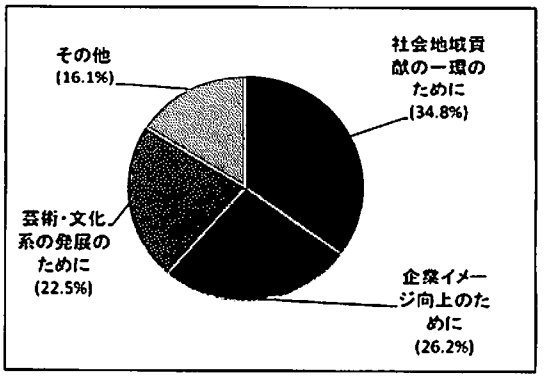
1. 企業メセナ活動の状況

2013年の韓国メセナ協会調査によれば、2013年には計114社の企業で1,109件のメセナ活動が行われた。また、企業メセナ活動費の総額は、1,664億7,200万ウォンと集計され、平均メセナ活動費は14億6,000万ウォンであった。図7からも分かるように、2011年以降に世界的な金融危機の影響をうけ、年々メセナ活動企業の割合が減少傾向にある。一方、企業当たり平均活動費は、2011年以降から徐々に回復し、2013年には14億6,00万円と集計された。



出典：韓国メセナ協会「2013 Annual Report」
図7　韓国企業のメセナ活動比率と平均活動費総額の推移

メセナ活動を行う目的としては、「社会地域貢献の一環のために」が34.8%と最も多い割合を占めており、続いて「企業のイメージ向上のために」が26.2%と多くなっていた。一方、「芸術・文化系の発展のために」は22.5%となっていることから、韓国における多くの企業では、主に企業経営戦略の一環としてメセナ活動に参加していることが分かる（図8参照）。



出典：韓国メセナ協会「2013 Annual Report」
図8　メセナ参加の目的(韓国)

2. 企業メセナとしての障害者文化・芸術支援の状況

韓国メセナ協会では、1999年から毎年「メセナ大会」を実施し、優れたメセナ活動を行っている全国の企業に対して表彰している。1999年から2014年までに表彰された企業の数は93社であり、そのうち、障害者文化や芸術活動を支援することによって受賞された企業は、1件のみであった。

ここでは、企業メセナによる障害者文化・芸術活動支援の状況を分析するために、障害者文化活動及び障害者芸術家を支援することによって「メセナ大会」で受賞した「(株)Samlip―ハートハートウィンドオーケストラ―」の事例を分析対象とした。また、メセナとして障害者文化・芸術活動を支援している代表的な事例も含めて分析した。

1) 事例１：(株)Samlip―ハートハートウィンドオーケストラ―

(株)Samlipによる「ハートハートウィンドオーケストラ」支援事業は、2008年の「メセナ大会」にてART &BUSINESS賞を受賞し、障害者の文化・芸術活動を支援する企業メセナ活動の代表的な事例として紹介されている。

「ハートハートウィンドオーケストラ」は、発達障害児のみで構成されているオーケストラ団体であり、社会福祉法人ハートハート財団により運営されている。

(株)Samlipでは、発達障害児が音楽的な才能をいかしながら、芸術活動に参加できるように支援するメセナ事業としてHappy Concertを開催しており、その一環として、2007年から2009年まで計3回の「ハートハートウィンドオーケストラ」コンサートを開催した。「ハートハートウィンドオーケストラ」が参加したHappy Concertは、障害者の文化・芸術活動を支援する事業だけではなく、障害者に対する社会的認識の改善にも肯定的な影響を与えた事業としても好評されている。さらに、Happy Concertは、(株)Samlipの社員のボランティアにより行われたため、障害者に対する社員の認識改善にも影響を与えたといえる(図9)。

しかしながら、発達障害児の音楽的な才能を生かすためには、発達障害の特性を考慮しいて長期間にわたる支援が必要であり、今後、障害者の文化・芸術活動を活性化させるためには持続可能な支援と管理プロジェクトが必要であるといえる。

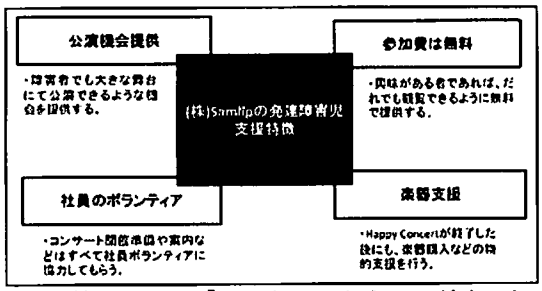


図9 (株)Samlipの「ハートハートウィンドオーケストラ」支援事業の特徴

2) 事例2：韓国シティ銀行(City bank)「1＋1労使共同寄付プログラムによる創作スタジオ支援」

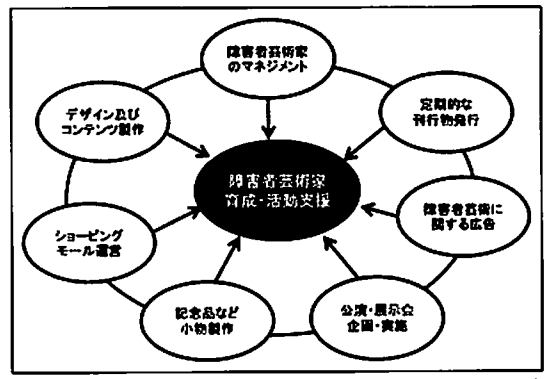
韓国シティ銀行では、2011年より「1＋1労使共同寄付プログラム」を実施しており、低所得者や社会的弱者を支援するための寄付を行っている。「1＋1労使共同寄付プログラム」とは、毎月労働者側と企業側で各10,000ウォン(約1,000円)を寄付し、集まった寄付金で多様な社会貢献活動を行うプロジェクトである。韓国シティ銀行によれば、現在「1＋1労使共同寄付プログラム」に参加した社員は1,630名と集計され、約4億ウォン(約4,400万円)を寄付した。

「1＋1労使共同寄付プログラム」一環として、2013年には、障害者芸術家の活動支援のために創作スタジオに対して4500万ウォン(約500万円)寄付するとともに、創作スタジオ改善のために社員がボランティアとして直接参加した。さらに、単なる寄付支援で留まらず、今後とも創作スタジオの障害者芸術家の活動を支援するために定期的なボランティア活動を行う予定である。

一方、韓国シティ銀行だけではなく、韓国の多くの大企業では障害者の文化・芸術活動を支援するために寄付金で支援する事例がほとんどであり、日本に比べて短期的な支援に偏っている特徴がみられる。

3) 事例3：Social Enterprise DESIGN MY LOVE －障害者芸術家の活動支援事業－

社会的企業であるDESIGN MY LOVEは、2005年に設立され、障害者芸術家のマネジメント事業を行っている。障害者が芸術家として活動できるような機会を提供するために、主に障害者芸術団体と契約を結び、コンサートやイベントを開催している。また、2012年からは、障害者芸術者の作品を活用してガイドブックやパンフレットなどを製作・納品することによって、芸術家として働く機会を提供している。さらに、2013年からは、ショーピングモールを運営・管理しており、月刊誌『ヘンボクナヌン(행복나눔)』を創刊するなど、障害者芸術家の社会的参加と経済的自立支援に積極的に取り組んでいる(図10)。



出典:Social Enterprise DESIGN MY LOVE ホームページ http://www.designmylove.com/index.php
図10 DESIGN MY LOVEによる障害者芸術家の育成事業

社会的企業 DESIGN MY LOVE による障害者芸術家の支援は、企業メセナの一環として行われている事業ではないが、2005 年から長期間にわたって障害者芸術活動を支援しており、音楽や美術分野の芸術家だけではなく、文学を含む多様な分野の芸術家をマネジメントしているため、この取り組みは、今後企業メセナとして障害者文化・芸術活動支援を促進していくために参考する必要があるといえる。

V．考察

本研究の目的は、韓国の企業メセナによる障害者文化・芸術活動を活性化させるための具体的な課題について提案することである。そのため、特に世界的な不景気や東日本大震災などによる厳しい経済状況にもかかわらず、持続的かつ長期的なメセナ活動を行っている日本の企業メセナ活動に着目し、日本と韓国における企業メセナの全般的な状況を分析した。その結果、日本の企業のうち、メセナを実施している企業の割合は年々増加傾しており、10 年以上メセナ活動に参加している企業の割合が高くなっていた。このことから、活動を継続してきた企業の取り組みが社会に深く定着しているといえる。一方、韓国では、2011 年以降に世界的な金融危機の影響を大きくうけ、メセナ活動に参加する企業の割合が年々減少していることが分かった。また、韓国の場合、継続して活動している企業の割合を示す統計的なデータがないため、メセナ活動に取り組んでいる企業の事例からみると、3 年未満の短期間で行われる事業が多くなっており、日本に比べて企業のメセナ活動の定着が進んでいないと考えられる。しかし、近年は企業の社会的責任が強く問われる時期であり、実際に社会地域への貢献を目的としてメセナに参加する企業が多いことから、今後社会的責任の観点からメセナに取り組む企業が増えてくるといえる（グロービズ経営大学院，2010)。

次に、日本と韓国の企業メセナによる障害者文化・芸術活動の支援事例を分析した結果に基づいて、韓国の障害者文化・芸術活動を活性化させるための今後の課題を以下のように提案した。

第 1 に、企業メセナによる障害者文化・芸術活動支援に関した情報交流の機会を設ける必要がある。例えば、日本では、近畿労働金庫の「エイブル・アート近畿　ひと・アート・まち」事業を含む多くの企業で、障害者芸術家の展示会や展覧会だけではなく、ワークショップなどを開催することによって、障害者文化・芸術活動支援の成果や事業運営に関するノウハウ、情報などを交流できる機会を提供し、障害者文化・芸術活動の定着と発展のために努力している。一方、韓国の企業の場合、障害者文化・芸術活動を支援する企業が少なく、さらに、メセナ事業の一環として障害者文化・芸術活動支援に関した情報交流ができる機会を提供している企業はほとんどない。今後、韓国の企業メセナを通して障害者文化・芸術活動を活性化させるためには、情報交換会の開催等により交流の機会を提供するなど、障害者文化・芸術活動を促進させることができる環境づくりが必要であろう。

第 2 に、障害の特性を考慮し、長期間にわたって支援可能なプログラムを実施する必要がある。障害者文化・芸術活動を活性化のためには、障害特性を考慮して長期的に支援していく必要があるにもかかわらず、韓国の事例からみると、寄付金による短期的な支援に偏っている特徴がみられる。一方、アコムの「“みる”コンサート物語」や近畿労働金庫の「エイブル・アート近畿　ひと・アート・まち」、三菱地所株式会社「キラキラっとアートコンクール」など事業は、5 年以上の長期間にわたって行われており、事業による実績や成果についても持続的に報告するなど、障害者文化・芸術活動の活性化のために努力している。このような事例に基づいて、今後障害者文化・芸術活動を継続して支援可能な新たな取り組みが必要である。

第 3 に、文化・芸術活動を通して、障害者と健常者が直接的に触れ合う機会を提供する必要である。例えば、アコムの「“みる”コンサート物語」では、健常者と障害者が同時に楽しむコンサートを実施している。また、アコムの社員がボランティアとして参加し、障害者を案内するなど、直接触れ合う機会を提供している。近畿労働金庫の「エイブル・アート近畿　ひと・アート・まち」では、障害者アーティストと健常者アーティストがコラ

ボレーションする機会を提供し、文化・芸術活動を通して、障害者と健常者が直接的に触れ合うような事業を行っている。このような事業を長期間にわたって実施することは、障害及び障害者に対する認識改善につながり、障害者文化・芸術活動の定着と活性化にも肯定的な影響を与えるといえる。

第4に、障害者の芸術活動が経済的自立につながるような支援が必要である。才能のある障害者アーティストが芸術活動を続けていくために、経済的な自立は非常に重要な課題である。しかし、韓国では企業メセナ活動の一環として障害者の芸術活動が経済的自立につながるような支援がほとんど見当たらない状況である。一方、上述したように、社会的企業であるDESIGN MY LOVEでは、2005年から長期間にわたって障害者芸術活動をマネジメントしており、定期的に刊行物を発行し、障害者芸術者の作品を活用してガイドブックやパンフレットなどを製作・納品することによって、芸術家として働く機会を提供している。DESIGN MY LOVEで行っている障害者芸術家の経済的支援の仕組みは、今後企業メセナとして障害者文化・芸術活動を支援する際に考慮される必要があるだろう。

文献

1) エイブル・アートWEBギャラリー．http://www.rokin.or.jp/art/
2) Byong-Tae JUN, Ryeong BACK, Ji-Hae MIN(2010) 障害者芸術活動支援方案．韓国文化観光研究院．
3) グロービズ経営大学院 (2010) グロービズMBAビジネスプラン．ダイヤモンド社．
4) 伊藤裕夫 (2000) 企業メセナ10年の歩みと今後の課題．文化経済学，4, 19-26.
5) 公益社団法人企業メセナ協議会 (2013) 2013年度メセナ活動実態調査．
6) 韓国シティ銀行．http://www.citibank.co.kr/
7) 韓国文化体育観光部 (2013) 2012 文化芸術政策白書．
8) 古賀弥生 (2005) 地方都市における企業メセナ活動とアートNPOとの連携に関する考察．文化経済学，5(1), 通算第20号，115-123.
9) キラキラっとアートコンクールホームページ．http://kira-art.jp/about.html
10) 三菱UFJフィナンシャル・グループアコム“みる”コンサート物語ホームページ
11) 文化庁 (2014) 我が国の文化政策平成26年度．
12) 社団法人　韓国メセナ協議会 (2014) 2013 Annual Report.
13) Seong-Gyu KIM, So-Yung KIM, Kum-Yung KIM, Bo-Ra NAM, Kyong-Lee KIM, Hwa-Yun CHOI (2012) メセナ法導入における妥当性研究．韓国メセナ協議会．
14) Social Enterprise DESIGN MY LOVE．www.designmylove.com
15) So-Yong KIM, Young-Sik Kwak (2003) Corporate-Mecenat Strategy Using the Corporate-Mecenat Fit Model. 韓国文化経済学会文化経済研究，6(1), 104-133.
16) UNESCO Culture sector (2000) World Culture Report 2000. UNESCO Publishing.